様　式　Ｃ－４１

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　５ 月 １５ 日現在

機関番号：９９９９９
研究種目：奨励研究
研究期間：2021～2021
課題番号：２１Ｈ０３９３６

研究課題名　　地域連携における文化財鑑賞授業の充実のための社会科授業開発と実践研究

研究代表者
田中　直子（TANAKA, Naoko）

総本山醍醐寺・学芸員

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　470,000円

研究成果の概要：　本研究では、世界遺産醍醐寺で2015年より申請者が学芸員として行ってきた、京都市立醍醐中学校を対象とした文化財の鑑賞授業の充実を図るために、歴史観の必要性を提案し、新たに社会科の事前授業を開発、導入した。
　そのために史資料を収集し、近世初期の醍醐寺における寺宝の保存継承および、明治時代の寺宝の概念の変遷について研究をした。それに基づき、3学年分の社会科の事前授業を行い、生徒の既存の学習成果を活用した歴史的な見方・考え方を育成し、成果の一部を学会に報告した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　本研究は、世界遺産醍醐寺で地域の中学校を対象とした文化財の鑑賞授業の充実を図ることで、ESD（持続可能な社会の担い手を育む教育）を担う博学連携モデルとして、社会へ貢献するものである。
　本研究では文化財を鑑賞する場を「地域の寺院」とし、学芸員と教員の相互理解による事前事後の授業を設けて文化財に接する体験を充実させ、３学年を通して学びを深めるところに特色がある。
　この鑑賞授業を通して、生徒の、地域社会に対する関心の向上および学習意欲の高まりが示され、生きる力の育成に寄与することが示された。さらに文化の多様性について、グローバルな視野が育まれ、情操教育の側面も相まって、教育的・社会的意義は大きい。

研究分野：伝統文化教育、近世史、文化財保存、古典技法研究、美術史

キーワード：伝統文化教育　鑑賞授業　地域連携　博学連携　社会科事前授業　歴史観　国際理解　ESD

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－４１

１．研究の目的

（１）本研究の目的は、世界遺産醍醐寺における京都市立醍醐中学校を対象とした文化財の鑑賞授業と、その充実のための事前事後の学習を開発、導入することにより、グローバルな視野で歴史・文化を理解する姿勢を生徒が養うことにある。美術科を通して実践してきた鑑賞授業において、新たに歴史観の必要性を提案し、社会科の事前授業を開発・導入することで、重層的な鑑賞の達成を目標とする。
（２）そこで、今年度は新たに社会科の教材研究を行い、事前授業のワークシートを作成する。ワークシートと授業計画については、学芸員と教員の相互理解と情報共有を図り、汎用性のあるものを作成し、博学連携による授業を実践する。その上で、目的の達成について検討・考察する。

２．研究成果

（１）教材研究については、授業内容に関連する文献などを中心に史資料の収集を行った。特に、近世初期の醍醐寺第８０世座主義演の仏画の修理事績については、寺宝の保存継承の観点から整理・検討をし、学会誌に投稿した。さらに明治時代においては、醍醐寺の所蔵する寺宝についての史料調査と美術調査を中心に論考し、寺宝の概念の変遷について、一部を成果として『文化史学』に投稿し、第７７号に掲載された。

（２）社会科事前授業については、学芸員・僧侶・教員の相互理解と情報共有を図り、生徒が既習の内容を有効に活用して相乗効果を発揮、自覚できるよう、中学校のカリキュラムに配慮して構成した。各学年の事前授業の教材はスライドとワークシートを、パワーポイントで作成して、Ａ３用紙片面に、「授業の目標・課題１～３または４・まとめ・本時の感想・鑑賞後の感想・自己評価アンケート」とし、課題の図は各１枚程をカラーで掲載した。また、前後の授業と鑑賞授業は、プログラム全体の考察と発表のために、ビデオと写真で記録を撮った。授業は、その内容を（１）の教材研究に基づき、以下①～③の構成とし、社会的な見方・考え方による生徒の探求心を引き出す問いかけを考案して、実践した。

①１年生は「始皇狩之図屏風」（江戸時代）の鑑賞と関連付けられるよう、事前事業では、始皇帝に始まる「巡狩」という名目の領地の巡視をテーマにし、豊臣秀吉や徳川幕府における巡行を描いた屏風を資料に用いて、社会的背景と関連付ける授業にした。
②２年生は重要文化財「五大明王像」の鑑賞に向け、インドから東アジアにおける仏像表現の変化について、紀元前・４世紀頃・８世紀頃・１２世紀頃を中心に、歴史の変遷と併せて考えるものとした。
③３年生は、国宝「三宝院殿舎と庭園」の鑑賞を前に、近世初期の醍醐寺の復興を『義演准后日記』を教材として確認し、タブレットで明治時代の境内の地図と比較して、社会的背景の変化について協議をした。

（３）上記の実践研究（事前授業）の成果として、醍醐寺における鑑賞授業では、地域の文化財を通史の中に位置づけ、文化の多様性を踏まえて鑑賞しようとする姿勢が見られた。蓄積した生徒のワークシートを分析したところ、文化継承の意義や、比較文化的な視点に関心が寄せられており、地域社会に対する興味関心の向上が示された。さらに、学習の自己評価では、約８０％以上が「よくできた・まあまあ良くできた」と回答し、高い自己肯定感を示した。
　これにより、本研究は国際理解の姿勢を育む ESD を担う博学連携モデルとして社会に貢献でき、生徒の生きる力の向上を図る伝統文化教育として、有意義であることが示された。加えて地域連携ならではの柔軟な COVID-19 対策が可能であり、情操教育としても中学校から高く評価されており、本研究の現代社会における重要性は増している。これらの社会科事前授業についての成果の一部は、第１８回和文化教育学会にて発表した。

主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計1件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

1．著者名 田中直子	4．巻 77
2．論文標題 明治時代における寺宝の認識の変遷―醍醐寺を中心として―	5．発行年 2021年
3．雑誌名 文化史学	6．最初と最後の頁 97ー112
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 ー

〔学会発表〕　計1件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 田中直子
2．発表標題 博学連携における文化財の鑑賞授業について
3．学会等名 和文化教育学会
4．発表年 2021年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

・「地域連携における伝統文化教育―京都市立醍醐中学校二年生の「五大明王像」鑑賞授業―」（『神変』1277号（8・9・10・11・12月合併号）総本山醍醐寺、令和3年12月1日）PP．133～138
・「地域連携における伝統文化教育―京都市立醍醐中学校三年生の「三宝院」鑑賞授業―」（『神変』1277号（8・9・10・11・12月合併号）総本山醍醐寺、令和3年12月1日）PP．180～186
・「地域連携における伝統文化教育―京都市立醍醐中学校「醍醐寺金堂」鑑賞授業―」（『神変』1277号（8・9・10・11・12月合併号）総本山醍醐寺、令和3年12月1日）PP．186～190

研究組織（研究協力者）

氏名	ローマ字氏名
林　善和	(HAYASHI Yoshikazu)
小泉　繁雄	(KOIZUMI Shigeo)
浅倉　有子	(ASAKURA Yuko)